

ウルグアイ通信

(1) 「遠くて遠い」国にやって来て

上席主任研究員 水野 映子

皆さんは「ウルグアイ」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか？

かつてニュースや歴史の授業で聞いた「ウルグアイ・ラウンド」、「世界一貧しい大統領」として有名になったムヒカ前大統領、サッカーが盛んな国…。私の身近にいる日本人が口にするのは、概ねこの3つのいずれかです。中には何も思い浮かばない人、地球のどの辺りにあるのかわからない人もいます。かく言う私も、以前はウルグアイについてほとんど知りませんでした。その国に今年の1月から私は住んでいます。

ウルグアイは、南米の大国ブラジルとアルゼンチンに囲まれた、大西洋に面する小さな国です。面積は日本の半分くらいですが、人口は約340万人で日本の横浜市や静岡県県の人口にも及びません。ただし、私がいる首都モンテビデオは、全人口の約4割が集中する大都市です。

日本から見るとウルグアイは地球のほぼ反対側に位置しているため、季節も日本と逆ならば昼夜も逆で、日本との時差はちょうど12時間です。正月明けの寒い日本から30時間以上かけて真夏のウルグアイにやって来てしばらくは、気温差と時差に慣れるのが大変でした。北から照る太陽や右側通行の車には、数か月が過ぎた今でもときどき戸惑います。公用語はスペイン語であり、日本語が通じないのはもちろん、英語も街中ではさほど通じません。

その国になぜ私が住んでいるかという点、JICA ボランティアとして活動するためです。JICA ボランティアとは、その名の通り JICA（独立行政法人 国際協力機構）が開発途上国に派遣しているボランティアです*1。ボランティアの派遣先や活動の内容は多種多様ですが、私は「観光」という職種で、ウルグアイの観光省 (Ministerio de Turismo) のアクセシブル・ツーリズムを推進するグループ (Grupo de Accesibilidad Turística) に配属されています。任期は2020年1月上旬までの2年（その間、第一生命経済研究所は休職）です。

「アクセシブル・ツーリズム」とは、簡単にいうと、障害の有無や年齢などにかかわらず誰もが楽しめる観光を指します。日本では「アクセシブル」の代わりに「ユニバーサル」「バリアフリー」などの言葉を使って、「ユニバーサル・ツーリズム」「バリアフリー旅行」などと呼ばれることもあります。意味はどれも概ね同じです。

私は日本にいた頃から長年、障害のある方や高齢の方が暮らしやすい社会をつくることに興味を持ち、関連する分野の調査研究業務や活動に携わってきました。アクセシブル・ツーリズムの分野もその一つです。また、個人的にも旅行が好きで、障害のある友人・知人と旅行に出かけることもよくありました。そうした経験から、自分だ

けでなく障害のある人や高齢の人ももっと旅行を楽しめるようになってほしい、また自分自身が将来歳を取って体が弱っても旅行できるようにしたい、との思いが常にあり、そのことがこのボランティア活動に挑むきっかけの一つとなりました。今までの日本での経験をウルグアイで活かし、そして東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の初めに帰国した後は、ボランティア経験を何らかの形で日本にも還元できればと考えています。

現在（2018年4月時点）までのところは、ウルグアイの観光の現状を把握するため、国内各所を観光省の職員とともに巡っています。ウルグアイには、世界遺産が2つ*²しかなく、日本人の誰もが知るような有名な観光地はありません。ただし、ウルグアイとアルゼンチンに挟まれたラプラタ川の河口や大西洋の沿岸、内陸の平野や湖畔、温泉が湧き出る北西部などには、自然を楽しみながらのんびりと過ごせる場所が各地にあり、ウルグアイ国内のみならず、近隣の南米諸国や北米、ヨーロッパなどから年間約400万人の観光客が訪れています*³。

一方、日本人をはじめアジア系の人々の姿を街中で目にするにはめったにありません。この国を訪れる日本人が少ないのは残念です。日本人にとって物理的にも心理的にも遠いウルグアイで、私が生活や活動を通じて見聞きしたこと・感じたことを、今後もお伝えできればと思っています。



沿岸に設けられたスロープ



カネロネス県アトランティダにて2018年3月に筆者撮影

* 1 : JICA ボランティアには、20～39歳対象の青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア、40～69歳対象のシニア海外ボランティア、日系社会シニア・ボランティアの4種類がある。

* 2 : 「コロニア・デル・サクラメントの歴史的街並み」（1995年登録）、および「フライ・ベントスの産業景観」（2005年登録）。いずれも文化遺産。日本ユネスコ連盟協会ホームページより。

* 3 : 2017年、ウルグアイ観光省調べ。

（ライフデザイン研究部 みずの えいこ）